



Eye Protection



MONTHLY
SAFETY
BRIEF
AUG 2003
NAF ATSUGI



目に怪我をする恐れのある全ての場所では目の保護具の着用が義務付けられます。これは、いつもそこで働いてる人だけでなく、事務や整備など、一時的にその場所にくる人にも適用されます。

個人保護具：目の怪我は永久的な視力喪失を引き起こす恐れがあります。目の保護具はそれぞれの仕事にあったタイプのものがあります。目の保護具には：セーフティグラス、サイドシールド付セーフティグラス、ゴーグル、フェイスシールド、溶接用ゴーグル、レーザーセーフティグラス、プロテクティブスクリーンなど。ゴーグルとフェイスシールドは物や液体の飛び散りに対して最適です。金属を溶接溶融するような場合は複数の目の保護具を着用しましょう。



アイウォッシュステーション：物質安全データシートや薬品のラベルに、応急処置として、水で目を洗い流せると書かれている物を取り扱う場所では、アイウォッシュステーションが必要です。もし、目になにか入った場合一番近くのアイウォッシュステーションで最低でも15—30分間連続的に目を洗うこと。入った物がより深く目に入ってしまう危険性があるので、目をこすってはいけません。曝露から最初の15秒が最も危険な時期です。もし洗浄しても異物が取り除けない場合は、両方の目をゆるめの眼帯でおおい、すぐに医者に見せましょう。



仕事におけるコンタクトレンズ：コンタクトレンズでは仕事における危険から目を守る事は出来ません。もしあなたがコンタクトレンズを付けているのなら、気体、蒸気、ホコリなど、特にコンタクトレンズに付着する可能性のあるものに注意しましょう。コンタクトレンズにはさらに、目の個人保護用具を着用しましょう。